



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
メールマガジン 創刊号

2002年11月1日発行



秋雨の ベールにおおわれた樹々の間で落ち葉が舞い散る東京の昼下がり、赤坂にある「ラジオたんぱ」第0スタジオを会場に「アンデスの声」リスナーズの集いがひらかれました。

はるばる群馬からきた鈴木義一さんが一番乗りでスタジオ入り。鈴木さんの独身時代のスリムな姿が、「リスナーズ・アルバム」には紹介されていますが、鈴木さんとは本当に長いつきあいになりました。

千葉からこられた須藤幹雄さんともレポートを通じて親しい交わりをさせていただいてきましたが、お会いするのは今回がはじめてでした。最近では、チャットでも 話合う機会

が与えられています。

「ホーホケッキョ！」スタジオの片隅から、時ならぬウグイスの鳴声。これは「ウグイスおじん」を自称する横浜の丹野秀雄さんのお家芸。最近、ご本人は世界一周の船旅を楽しんだあと、南極探検に出かけて、ペンギンたちにその得意とするウグイスの鳴声をきかせて拍手喝采を受けたとか...

今年は日本短波クラブ(JSWC)の50周年。その記念行事を積極的にすすめておられる大武逞伯さん。かつて北米滞在中は、ラジオ日本やほかの局が聞こえない中で「アンデスの声」だけは、よくきこえたと話してくださいました。



「アンデスの声」が第一声を放った直後、日本から舞い込んだ最初のレポートが山田耕嗣さんからのものでした。1970年代、山田さんの労作「BCLマニュアル」が発刊されるや、「BCL(海外放送受信)は趣味の王様」の合言葉で中高生を中心にブームがまきおこりました。その結果、全国津々浦々で「アンデスの声」の新リスナーの誕生をみたのです。DXレポート・コンテスト、聴取者電話参加生放送、短波放送終了にともなう「リスナーズ・アルバム」の編集など、山田さんには「アンデスの声」とともにあゆんでもらった舞台裏での 思い出話を語ってもらいました。

リスナーの集まりには、必ず顔を出してくださる林義晃さん。浦和の自宅に訪問して35年の歳月が過ぎました。そ

の後、浦和でひらかれたリスナーの集いは、HCJBベリカードとしてとりあげられ、そこには当時のリスナーにまじって林さんの姿もみられます。

横浜の金井毅さんと川崎の竹野伸郎さんは、いつも、いっしょにお会いするので、その理由をきいたところお互いにBCLを通して知り合った仲間ということでした。「趣味の友は真の友」と言えそうです。

東京の野部裕一さんも、友人の竹中暢夫さんにBCLの手ほどきをうけて「アンデスの声」をききはじめました。ティーンエイジャーから今は、子持ちのBCLパパになりました。

この日が、たまたまBCL連盟の機関紙「My Wave」の原稿締切日と重なったため、紺野編集長は欠席。そのかわりに編集協力スタッフの細谷正夫さんが代表でこられました。細谷さんは、海外旅行の旅先からでも忘れずに 受信レポートをとどけてくださる熱心なリスナーです。

横浜の郵便局員だった橋本秀和さんは、受信レポートをいつも外国に出す齊藤淳一さんに声をかけたのがきっかけで知り合いになりました。結婚のときには、齊藤さんの気くばりでアンデスからお祝いのメッセー

ジを贈りましたが、その後、長女さくらちゃんが誕生して父親になったといううれしいニュースを耳にしました。

高校のとき、相模原の教会で会った森下雅夫さん。当時、ひんぱんにレポートをもらっていたことが、自筆のサインをみてわかりました。今は、社会人として第一線で活躍する森下さんは、21世紀の日本には、国際感覚をもった人物の輩出が急務であると熱っぽく訴えていました。

朝顔教会の海外宣教役員である栢沼康夫^{カヤヌマ}さんは、「リスナーの集い」には今回がはじめての出席でしたが、何と、これまでにHCBから送られてきた資料がすべて保存されているファイルを大事に持っておられました。あらためて陰で長い間ささげられてきた教会員の方々の愛と祈りに深く感謝しました。

短波受信では避けることのできないノイズとフェーディングの中で、賛美歌とメッセージだけが不思議とよくきこえてきたという横永剛志さん。その奇跡の積み重ねで教会を結びつき、現在はその教会で精力的な奉仕をつづけておられます。教会関係の最新ニュースをいつもとどけてくださっています。

特別ゲストは、一時帰国中の内田芳江さん。長女の結婚準備で多忙な時間を割いてかけつけてくださいました。「お便りコーナー」や「ドラマ」にレギュラー出演してもらったので、リスナーにとっては声はおなじみとはいえ、ほとんどの人が初対面でした。番組面でも、経済面でも、内田ファミリーにはエクアドルでの後盾になってもらっています。

フロリダ大学留学中に「アンデスの声」を聞きはじめた齊藤淳一さんからは、それ以来、リスナーとして、また専門のコンピューター分野で多くのアドバイスをいただきました。特に最近、HCBでインターネット放送がはじまってからは、パソコン操作のテクニカル・アドバイザーをお願いしてきました。このたび、試験的ですが、「e-La Voz」創刊号の発刊にこぎつけることができたのも齊藤さんの尽力によるものです。

2000年12月31日の最終番組はスタジオで全員が「蛍の光」を歌いましたが、放送が終わったあとで、「上を向いて歩こう」(永六輔作詞・中村八大作曲)を歌って欲しかったという手紙が齊藤さんからとどきました。そこで、2002年「アンデスの声」東京の集いの別れは、全員でこの歌を合唱することにしました。



”上をむ～いて、あ～るこお～お～。。。。ひとお～りぼおちの夜” みんなが声をあわせて歌いおわると、すかさず、「ひとりぼちの夜には、アンデスの声をどうぞ！」とCMが入って幕。

集会のあと、出席者同士でお互いに話がはずみました。皿に盛られたエクアドル産のパナナチップスを口にほうばり、テーブルに置かれたHCBグッズから自分の好きなものを選び、相互に握手を交わして再会を約し散会。外に出ると、すでに夕闇のとばりがおり、小雨にぬれる街の明かりが目まぶしいようでした。

在 主 尾 崎 - 夫 久 子

【お知らせ】

東京ミーティングで撮影した写真をeアルバムにまとめました。リンク先URLは、

<http://www.photohighway.co.jp/AlbumPage.asp?un=88953&key=1062774&m=0>

パスワードは、**458aT2W7** です。

(ご注意:パスワードは、すべて半角(1バイト系)文字で、大文字小文字を区別します。)

写真のプリントをご希望の方は、実費ご負担にてご注文いただけます。eアルバムにログイン後、画面右上にある[プリント]ボタンをクリックし、表示される手順に従って必要事項をご入力の上、お申し込みください。なお、プリントのお届け先は日本国内に限定されておりますことを、予めご了承ください。

ゲストブックも用意してありますので、画面右上にある[ゲストブック]ボタンを押して、ご感想などをご記帳ください。

このeアルバムのことをお友達に案内するには、画面右上にある[友達に紹介]ボタンをご利用ください。

[eアルバム操作方法のヒント] 各写真をクリックすると中解像度の大きさに拡大表示されます。その写真をもう一度クリックするとオリジナルの高解像度で表示されます。高解像度の画面をお手元のプリンタで印刷したり、画像をダウンロードしてお手持ちの画像処理ソフトなどを使ってプリントすることもできます。

- プリントのご注文に関してご不明な点は、[プリント]ボタンをクリックし表示される画面右上にある[はじめての方へ(ご利用ガイド)]あるいは[店長へ問い合わせる]ボタンをクリックしてください。
- このeアルバムは、2003年3月31日までご利用いただけます。

このメールマガジンは、HCJB『アンデスの声』日本語部の管理するメールリストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご希望などは、[HCJB『アンデスの声』日本語部](#)までお送りください。(左の下線部分をクリックしてください)

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する]ボタンをクリックして、手続きをお願いします。

配信の停止 (**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

配信変更先のメールアドレス

(**重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。**)

新規登録するメールアドレス

お送りいただいた内容はメールリストサーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
このメールマガジンはコンテンツが大きいため、携帯電話への配信はできません。



Copyright © 2002 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org.ec

郵便の宛先: HCJB, Casilla 17-17-691, Quito, ECUADOR
